

教育改革 大阪教育付属校移転は 柏原市に大きなメリットをもたらす!!

非常に多難であるが、あきらめず市民一丸となって国を動かす必要があります。



ある日、若者から「柏原市に公立の進学校をつくりたい」と要望を受けました。

現在柏原市には、公立高校として柏原東高校がある。柏原東高校は学力向上を目指す進学校というタイプではない。学力だけを重視する学校教育では問題もある、人間形成も大事である。学力向上を図る必要性は学校教育にもあります。

今後、学力向上に関する対策は期待されない。そこで、要望をしてくれた若者たちがさらにこう言った。柏原の学力向上を図るために「柏原大阪教育大学の附属学校を開校できないだろうか」と。無理難題の要望であった。

実際、一から偏差値の高い進学校を開校するのはとても難しい。そこで、学力の高い附属学校を柏原市に開校することのほうが遥かに実行しやすいのだ。というの、ご存じの通り柏原市には大阪

教育大学柏原キャンパスがあり多くの学生が通っている。教育実習へは、平野、天王寺、池田の三つの附属校へ行くことが多い。しかし、学生の中には柏原市周辺に下宿をしており、実習配属校が池田や天王寺になった場合は、通うのが非常に困難であり、研修に向かう教授もまた、普段は柏原キャンパスで勤務をしているため、移動時間が長いことから苦勞をしているようなのだ。

大学側からの意見ではなく、地元からの声も届いている。現在、柏原市に在住の4、5歳の子どもを持つお母さんからのものだ。

「中学までは柏原市の公立学校に通わせるつもりですが、高校からは別の地区の学校に通わせるつもりです」。



写真 上 教育大駅前
左 国立大阪教育大学

この言葉の裏には、偏差値の低い学校には通わせたくない、という意味が込められている。西日本で教員採用率ナンバー1を誇る大阪教育大学が柏原市にあるのだから、柏原市に附属学校を開設していくべきではないだろうか。仮に大学の施設内に附属学校を開設したら、合わせて柏原市に引っ越し

をする家庭も増え、若者が集まる柏原市へと変化していきけるだろう。学力向上だけではなく、町の活気も明るくなる素晴らしい要望であることをみなさんに紹介したかったため、掲載した。今後も、若者の声に耳を傾け斬新かつ柔軟な意見を取り入れていきたい。

付属高校ができれば

- ① 人口の増加、特に若者が増える。
- ② 若者たちきて、活気づく(現に教育大が来てから飲食店がかなり増えた)。
- ③ 大学と市の連携がとりやすくなる。大学との連携が取れば、学力も上がる。
- ④ 良い学校を求めて出ていく家庭を引き止めることができる。

「夢」のような話かもしれませんが、実現すれば凄いことです。

「夢」のような話と思わずに、未来の柏原市のために若者たちと一緒に力を合わせて、「夢」を追いかけていきたいと思います!

はまうら佳子の元気が出るコラム

鶴瓶さんから 亡き主人への メッセージを紹介



かつて、平成1年4月8日に、亡き主人が鶴瓶さんと共演させていただきました時に、素晴らしい色紙をいただきました。主人はいつも大切に額に飾ってました。その色紙に「浜浦さん、何かしなければ、道に迷わないけど、何もしなければ、石になってしまう」と書かれています。私も、鶴瓶さんのこの言葉をいつも心に刻んで行動を起こしています。

